

令和 5 年度 学校 総合 評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後の状況下で、本校教育活動が単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち真に必要なものを回復させるとともに、GIGA スクール構想の下で生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れることにより、いわば新しい学びの在り方へと進化を図っていくことが重要との視点に立ち、学校アクションプランの各重点項目及び重点課題の達成目標を設定した。

指導と評価の一体化・工夫と改善の体制作り、スマホ依存の防止と環境美化、進路目標の早期設定と実現の支援・「スタディーサプリ」の活用法、自主的な活動を促す組織作り・学業と部活動の両立、資格取得の充実と推進、PTA活動の活性化と迅速な情報発信等々を掲げて目標の達成に努めてきたところ、各項目において取組状況における効果の差はあるものの、概ね評価はA・Bであった。

学校評議員からは、本校の教育活動に関し、忌憚のないご意見をいただくことができた。ICTの活用で高校の授業も様変わりしつつある。スマホの依存度は利用時間の長短にのみ目を向けるのではなく、役立つスマホの利用法も検討していただきたい。就職率はほぼ100%であり、努力の結果が出ている。学生であるという本分をわきまえて、部活に取り組む生徒を育ててほしい。学力が上がれば部活も充実する。各専門学科、資格取得の達成目標に向けての努力を今後も継続してほしい。災害発生時での安否確認に「安全メール」の実効性があるように、日頃からの運用も検討していくべきである。など、学校に対し中・長期ビジョンに立った総括的本校の在り方についての示唆をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

生徒目標「高きを求める情熱」のもと、「文武両道」を目指し学習と部活動の両立に努めるとともに、県東部を代表する総合高校として、普通科の進路意識向上を目指した特色化と、薬業科・商業科・海洋科の専門性の伝統と進化を追求し、興味あふれる高校像を広く地域に発信し、いかに中学生を魅了できるかを模索していきたい。そのために、学校評議員からの各項目やその他の分野に対する指摘やアドバイスをもとに、本校のあるべき新しい在り方への進化を図っていくことの具現化を検討し、推し進めていきたい。

(様式5)

8 学校アクションプラン

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5その他

令和5年度 滑川高等学校アクションプランー1ー	
重点項目	1学習活動(2)学習指導
重点課題	指導と評価の一体化と学習の振り返り、工夫と改善に向き合う体制づくり
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・教務規定に沿った校務支援システムの運用に対し、教職員の理解が均質に進んでいない。また入力や抽出の負担が大きい。 ・学習意識調査(6月、11月)が必ずしも継続的な学びの改善につながってこなかった。
達成目標	① 指導法の改善が、生徒の学習理解度や振り返り状況によってなされ好循環を教員が目指すことへの理解を増やす。 ② ①の成果を客観的に測る方法は難しく、年間を通じ変容が見られたかを教員、生徒の双方から捉えてみる。
	③ 学習意識調査のあり方を再検討し、学びに向かう力が測れるものへ変更する。 ④ ③の実現に向け、時期や実態に即した生徒の学習状況を把握できるよう公正な調査方法を導入する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールポリシーを提示し、実現のためのルーブリックの認知度を高める。 ・1年をかけて校務支援システム完成年度に備える。 ・グループワーク、ペアワークなどの授業展開や生徒の振り返りの好事例を収集する。 ・互見授業や研究授業などの機会を活用し、教科の枠を超えて授業研究を行い、改善に努める。 ・生徒の評価方法や授業のあり方等について研究・情報共有に努める。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、11月に実施した互見授業は、延べ72名が参観した。新しい学びで推奨されるペアワーク、グループワーク型授業は45.8%であった。 ・学習評価に関する相談が教務部に多く届く。規準を示し、適切な運用が実施できている。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部が扱う行事や調査の多くでICTを活用した。校務支援システムの整備等で新しい取り組みを進めた。 ・新学習指導要領に則り、観点別評価について教員間の理解が深まっている。
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用の推進ができた一方で連携、活用に課題を残した。 ・授業改善に向けたデータ蓄積は、必ずや価値をもつ。
学校評議員の意見	ICTの活用で高校の授業も様変わりしつつある。先進的ツールを使った新しい教育の成果に期待したい。 「自律心の向上」は探求力や向上心に結び付くものと考えます。学生時代に少しでも自律心を養っていくことが、社会人として生きる上での力になると思う。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善と学習評価への研究修養 ・新しい学びの完成年度へ向けた環境整備 ・今年度以上にICT活用を推進し、収集データの活用を進めたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和5年度 滑川高等学校アクションプランー2ー

重点項目	2学校生活 (6)生徒指導(7)保健指導	
重点課題	・スマホ依存の防止 ・環境美化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等の長時間の利用による生活習慣や学習習慣が乱れている生徒が多くみられる。また、SNSにおける個人情報の取り扱いや不適切な書き込みなどによるトラブルが生じている。 ・環境整備に取り組む姿勢は全体的には良くなっているが、清掃開始が遅れたり、清掃活動に積極的に参加できない生徒もみられる。 	
達成目標	① スマートフォン等の使用に関する自己管理能力の育成とネット上のルールやマナーの徹底を図る。 帰宅後のスマートフォン等の1日の使用時間が3時間以内の生徒の割合70%	② 環境整備、美化活動を習慣化するための環境美化委員会を中心とした自主的な活動を図る。 ②年間8回 (各学期の美化週間、5月・10月の中庭花植え、7、8月除草や水遣り、8、12月の長期休業中の部活動におけるトイレ更衣室の掃除など)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自発的な意識づけを行うために風紀委員や生徒会による注意喚起を行う。 ・適切な利用について保護者と連携して、家庭でのルールづくりを徹底させる。 ・研修会等を開催し、ネットに関わるトラブルの発生を未然に防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間を学期に1回設定し、環境美化委員会を中心として、外清掃を含む清掃活動の強化を図る。 ・日常的に清掃を中心とした環境美化において全教職員でさらに粘り強く指導する。 ・花壇や中庭などの整備を行うことにより、情操教育の一助とする。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話に関する違反の件数、授業中の違反8件(昨年度4件)、授業以外での違反18件(昨年度24件) ・帰宅後のスマートフォン等の1日の使用時間が3時間以内の生徒の割合1学年42.1%→68.6%、2学年53.8%→55.6%、3学年73.5%→66.2%、全体55.9%→63.8%(昨年3学期→2学期 全クラス対象) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会を中心に、環境整備、美化活動に関わる自主的な活動を行えた。 ・美化週間については、例年とやり方を変え、環境美化委員会が主体的に活動できるように工夫した結果、活動が活性化した。 ・清掃活動は、全教職員がていねいに指導することで、生徒の美化意識も高まったと感じる。 ・中庭の花植えについては、6月に環境美化委員で除草後、植栽を行った。7、8月の水やりは、猛暑の為徹底することはできなかったが、10月の除草・整備は協力して行えた。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の適切な使用について、学年集会や教室等で繰り返し指導を行った。教職員間においても共通理解を図り、昼休みの校内巡視など多くの場面で指導を行った。 ・全校生徒に実施したアンケート結果からホームルーム等において、スマートフォンの使用についてのルールを決めるように指導した。 ・「生徒指導通信」や各学期の休業中の生活に関するしおり等を利用して、生徒の意識付けを図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間において、各教室に周知のためのポスターを掲示したり、チェック方法を変えたり、コメント欄を設けたりと、美化意識を高めるために工夫した。 ・11月の110周年記念式典に向けて、環境美化委員会が中心となって花壇・中庭の整備や、正面玄関前の外掃除、トイレ掃除など、環境整備活動に積極的に取り組んだ。 ・学校保健委員会のテーマを「教室の環境整備」とし、保健委員会が中心となって、環境を整える大切さを実感できる活動を行った。

評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の違反件数は、昨年度より減少した。さらにルールの確認や生徒の意識付けを図り違反件数を減少させる必要がある。 ・昨年度より、使用時間は学年全体としては減少している。授業や部活動などに集中して取り組ませるとともに、生徒の意識向上に努める必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員や保健委員が、環境整備、美化活動に関わる活動を主体的に行い、学校全体としての活動につなげるように工夫した。 ・清掃活動は、全校生徒が積極的に取り組んだ。
学校評議員の意見	<p>スマホの依存度は今後益々高くなっていくと思われるが、利用時間の長短にのみ目を向けるのではなく、学習や、防災など生活に役立つスマホの利用法への理解を深めることも並行して検討していただきたい。</p>			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会などを通してのスマホ、携帯電話の使用について、ルールやマナーを遵守するように意識を高める。 ・学校と家庭が連携し、スマートフォンの使用について個人や家庭でルールを決めたり、設定を変更したりするなど共通理解を図りながら指導を行う。 ・生徒会が中心となって学校として取り組みを考えさせ、使用時間の短縮を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策として、換気や手洗い等基本的な予防対策を指導し、蔓延防止の徹底を図る。 ・清掃活動やゴミの分別の指導を強化し、環境美化の更なる徹底と落ち着いた雰囲気のある学習環境の向上を図る。 ・環境美化委員や保健委員が主体的な活動ができるように指導・支援をする。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和5年度 滑川高等学校アクションプランー 3ー

重点項目	3進路支援 (4)進路指導	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の早期設定と実現の支援 昨年度から全学年に導入された「スタディーサプリ」を活用して、指導の工夫や学習改善を行う。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちは進路について考える必要性を自覚してはいるが、具体的に目標を決めてから実現に向けて努力する期間が短くなりがちな生徒が少なくない。 	
達成目標	① 2年生の3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望大学への合格率(3年9月志望) ③ 成績が伸びた生徒の割合(1,2年)	④ 基礎学力の定着に向けた面談の実施率 ⑤ 希望する職種に就職が内定する生徒の割合
	① 80%以上 ② 60%以上 ③ 60%以上	④ 100% ⑤ 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導を通して進路目標を徐々に具体化させる。 進路講話や出前授業、研修旅行、大学訪問などの行事を充実させ、進路について考えるきっかけとする。 校内テストや外部模試の結果を基に自分の学力を把握させ、一層の努力を促す。3学年普通科については、課題テストを実力テストと改め、より自覚を持たせる。 オープンキャンパスへの積極的参加を促すため、面接指導、保護者会等とおして参加する重要性を周知・認識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の様々な場面において礼儀やコミュニケーション能力が身に付くよう指導を行う。 生徒が自己の能力や適性を知り、どのような職種・企業でそれらを発揮できるのか考えることができる情報・機会を与える。 生徒の能力と適性に応じた個別指導を行う。 就職支援アドバイザーとの連絡を密にし、就職内定のための支援を行う。
達成度	① 普通科 100% 薬業科 100% 商業科 100% 海洋科 100% ② 私立の大学・短大の指定校推薦は100% 国公立推薦は58% (19名中11名合格) ③ 1年→2年では31%。2年→3年では32%だった。	④ 各学期に設定されている面接週間や日々の昼休みや放課後の時間をうまく利用して、担任は粘り強く面談していた。 ⑤ 98.3% (60名の就職希望者の内一般企業55名と公務員希望者4名が内定。) 後一般企業希望者1名が受験中。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習や職場の先輩と語る会は、今年度も対面形式で実施することができた。 今年度も生徒の進路目標の実現に向けて推薦入試や総合型選抜を有効に活用した。また、実力養成のために積極的に補習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナ禍も過ぎ、2学年の研修旅行は、宿泊を伴い従来通りの規模で実施することができた。 今年度は昨年度よりも求人数が多く、応募前職場見学の件数が大幅に増加した。
評 価	① A ・2年3学期が3年0学期であるという考えがだいぶ定着してきた。 ② B ③ C ・今回の学年間の成績上昇調査においては、それぞれ各学年の3分の1の生徒が成績を上げた。	④ A ・就職希望者については、内定100%に向けてあと一人となっている。 ⑤ B
学校評議員の意見	就職率はほぼ100%となっており、先生方の努力の結果が出ている。早期に進路先や志望分野を決定し、それに向けて余裕を持った対策をすることが重要である。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 社会が求める人材の視点を取り入れながら、生徒の進路実現を支援する。また、地域の要望に応じた人材育成に力を入れる。 生徒の段階に応じた適切な情報提供と面接指導により、進路目標を具体化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特色、各学科の取り組みや学習内容を積極的に地域社会に発信していきたい。 生徒各自がしっかりと納得できる進路目標の達成に向けて、積極的に支援していきたい。 「スタディーサプリ」は次年度で3年目となり、しっかりと活用していきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和5年度 滑川高等学校アクションプランー4ー

重点項目	④特別活動 (5)特別活動	
重点課題	自主的な活動を促す組織作りと学業と部活動の両立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 指示を聞いて正しく行動をとることのできる生徒は多いが、自らがリーダーとなって責任を果たそうとする生徒が、まだまだ少ない。 学校行事には熱心に取り組む生徒は多い。しかし、与えられた活動に乗るだけで、自ら改善点を考え向上させようと関心を持ち変化をつける生徒が少ない。 部活動は全員加入制を採用しており、高い目標を持って熱心に取り組む生徒が多い。 学習と部活動の両立を図るための指導の工夫が十分といえない。 	
達成目標	① 学校行事やホームルーム、生徒会活動等において役割や責任を持ち、積極的に関わることができたと感じる生徒の割合	② 学習との両立を目指して、部活動の内容や時間を工夫し、充実感を持った生徒割合
	・80%以上	・80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各行事や各種取り組みにおいて、生徒が主体的に活動できるよう動機付けをする。 組織や役割分担を明確にすることで、リーダーを育てると共に、互いに連携し支援し合えるように指導する。 各クラスに学級長を配置し、生徒議会などを通してクラスの意見を吸い上げ、学校全体で行事や生徒会活動に関わりあえる組織作りを意識させる。 先を見通したHR計画、またテーマの設定や討議資料の作成、事前研究などの準備をすすめ、その反省をする。 生徒自らが学校行事・生徒会活動について、企画・アイデアを発案できるムードを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部の目標を明確にし、その達成に向けて計画的に取り組む。 積極的に休養日を設け、活動にメリハリを付ける。 部活の開始前、終了後の指導を強化し、家庭学習への取り組みについても指導する。 部活動指導員やスポーツエキスパートを活用し、教員の負担を軽減させながらも部活動の活性化を図る。 生徒会・学級長や部活動代表者を集め携帯電話のマナーや使用について、共通理解を深めるように指導する。 担任以外の部活動顧問も面談を行い、高校生活の充実、進路実現、「滑川高校生らしい(進学・就職)究極の文武両道」を目指し、指導する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果、学校行事に積極的に参加した生徒は「体育大会」が86.7% (昨年78.7%)、「文化部発表会や芸術鑑賞会」が91.1% (昨年85.5%)「生徒会・委員会・学級の仕事に積極的に参加した生徒」が86.7% (昨年79.7%)と目標に達した。 「ホームルームでの活動や話し合いに積極的に参加で来た」が63.6% (昨年62.7%)であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果、「学習と部活動を両立させるよう努力している」が81.0%で、昨年(77.1%)より上回った。 「部活後に速やかに下校できている」が87.3%で、昨年(87.3%)と横ばいであった。 「すき間時間を利用して学習している」が66.7%で、昨年(64.8%)より、やや上回った。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会では、生徒会や生徒のニーズから、新種目を実施し盛り上がった。 芸術鑑賞会では、東京サロンシンフォニーと、本校音楽部と吹奏楽部とがコラボし生徒参加型の企画で、他校教員・本校OBからも好評を得た。 体育大会応援・マスコットは、団長、応援団長、マスコット責任者など3年生主体で計画し、各団顧問助言もあり、リーダーシップの育成に大いにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の確保に対して、強豪の運動部での意識が高まり、成績優秀者に名前を連ねた。 部の顧問からも学習指導、生活指導していただいた。 部顧問会議を通して、休養日の設定や学習時間の確保の大切さを、各部活動顧問に理解してもらい、学力向上に協力していただいた。
評 価	B <ul style="list-style-type: none"> 学校行事(体育大会・文化活動発表会・芸術鑑賞会)に積極的に参加したと応えられた生徒が80%を超えた。 リーダーとしての貢献度を感じる生徒の割合は51.0% (昨年44.9%)であり、受動的に行事などに参加している生徒が多い。 「ホームルーム活動に積極的に参加で来た」が63.6% (昨年62.7%) 	B <ul style="list-style-type: none"> 部活後に速やかに下校できている生徒が増えてきたが、一部の部活動で活動後にも校内に長居する傾向にある。 全国大会に出場する部から、学業の成績上位者が増えてきた。

<p>学校評議員 の意見</p>	<p>特別活動は高校生活の中で特に思い出に残る活動なので、多数が積極的に参加することに意義があると思う。 学生であるという本分をわきまえて、部活に取り組む生徒を育ててほしい。学力が上がれば部活も充実する。</p>	
<p>次年度へ向 けての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に参加してみたい生徒が67.0%（昨年66.1%）で、次年度はボランティア活動参加要請を、しっかりと各クラスに伝える。 ・各クラスと連携をとり、多くの生徒がリーダーシップをとれるよう、清掃の班長や、係活動などで役職を与え、実績を評価していく共通理解を図る。 ・さらに生徒の意見を取り入れ、参加しやすい行事にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動顧問・クラス・学年・学科で、部員の学習・成績について情報共有し、成績優秀者を賞賛し、成績下位者に声かけする。 ・練習後の速やかな帰宅を徹底させる。 ・電車・バス内の通学時間や昼休みなどの、すき間時間にも学習することを啓発する。 ・部活の欠席が多い生徒に対して、クラス担任とも情報共有する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和5年度 滑川高等学校アクションプランー5ー

重点項目	① 学習活動 ③進路支援 (8)(9)(10) 専門学科指導		
	< 薬 業 科 >	< 商 業 科 >	< 海 洋 科 >
重点課題	資格取得の充実	資格取得（全商）の充実	① 水産関連等の資格・検定取得の推進 ② 放課後アクティブラーニングの活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得が生徒の学習意欲を引き出している一方で家庭学習が不足している生徒が増えてきている。 部活動と学業の両立を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 検定試験の内容が新課程になって変更され、難易度も高くなっており、合格者数が心配される。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な教科の学力不足から各種検定・資格試験の合格者数が伸び悩んでいる。 恒常的に家庭学習時間の不足が認められる。学力向上に費やす時間や意識が薄れている。 環境活動発表や魚食振興のため外部との協働に海洋クラブが活躍する状況にある。
達成目標	①学年ごとの危険物乙種第4類取得者、危険物乙種全類取得者、危険物以外の資格検定に取り組む。	①新課程の財務会計Ⅰ、原価計算を重点科目として、1級簿記実務検定試験の合格者数。 ②3年生は3種目以上1級取得者の人数。	<ul style="list-style-type: none"> 水産関連等の資格・検定取得数の向上 マリンマイスター申請者の向上（全体の底上げ） 海洋クラブ活動の積極参加を昨年度と比較し、質や量を検討
	<ul style="list-style-type: none"> 危険物乙種第4類 1学年70% 2学年100% 危険物乙種全類3学年80% 品質管理検定の受検 	<ul style="list-style-type: none"> ①60%以上 ②70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 1人年間3つ以上 申請率85%、プラチナ・ゴールドが申請者の35%以上 昨年度で質・量を比較
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 危険物乙種全類取得を目指し、学力補充を支援する。品質管理検定に取り組む。その他の資格（P検、英検、漢検など）で基礎学力を充実させるよう意識付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用。 観点別評価を効果的に活用し、生徒の主体的学習を促す。 放課後補習の実施 生徒個々の学習状況を担当者で把握 3年の課題研究に簿記検定試験コースを設け、指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通教科とは別に基礎学力の補充を目的とした問題集を課題にし、意識の向上を促す。 資格への意欲向上、取得を目指し、個別対応を充実させる。 意欲的な生徒への参加を促し、継続的な支援を行う。
達成度	2月に危険物取扱者試験、3月に品質管理検定の受検があるので、最終評価はその後になる。ほぼ達成できる見込みである。	①財務会計、原価計算の各合格者は22名と23名。1級同時取得者は17名。1級取得43.5%。 ②3年生は3種目以上1級取得者39名中34名で87%が取得	<ul style="list-style-type: none"> 水産関連資格 小型船舶操縦士 5名合格/6名受検 ダイビングCカード 11名合格/11名受検 マリンマイスター申請率 海洋クラブ コンテスト等応募・参加 食品系 3件 栽培・資源系 3件
具体的な取組状況	補習や個別指導、授業内容との関連づけなどにより、知識の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習の実施 個別指導の充実 教員間での問題の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 水産関連の職業に興味を持つような授業・実習を行った。また、関連企業の経営者から話を聴く機会を設けた。 水産研究所との共同研究 アカモク種苗の生産試験 刺し網・かご縄実習の開始

評 価	B 最終評価は3月以降になるが、ほぼ達成できる予定である。	①について、D ②について、A	C ・資格取得数では、低迷したものの、水産関連進路者数および見学者数が増加した。 ・コンテスト等への参加は、例年並み。 ・新規活動は、研究及び漁業実習を開始した。
学校評議員の意見	各専門学科、資格取得の達成目標に向けて努力されていることを、今後も継続してほしい。		
次年度へ向けての課題	引き続き資格検定の合格を目標に、授業や補習を通じて基礎学力の定着を図る。	生徒への学習指導の中で、新しい内容だけでなく、会計に関する基本的なことがらも重視して指導することが課題である。生徒の実態把握が課題	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>個々の興味・能力に応じた学習を推進</u>し、希望に添った進路実現を目指す。 ・実習では主体的に取り組める環境作りに努め、「深い学び」につながる指導を考案する。 ・マリンマイスター取得者数の増加を目指す。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)

令和5年度 滑川高等学校アクションプランー6ー

重点項目	5 その他 (12) 地域との連携・協力	
重点課題	P T A活動の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会について、第1回68%、第2回72%、第3回63%、第4回34%の参加率であった。 ・PTA役員会やPTA行事の様子をwebで発信している。PTAだよりを年3回発行している。 	
達成目標	・役員会の参加率の向上	① Webサイトのリニューアル ② 情報安全メールの登録増
		① 迅速な情報発信と内容の充実 ② 全学年保護者登録90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会の案内を早めに配布し、webにもあげる。 ・webにPTA活動の様子をこまめにアップし、活動への理解・関心を高める。 ・PTAだよりなどを通して、PTA活動への関心を高め、参加を促す。 	① Webサイトのリニューアルを行うとともに、迅速な発信に努める。また部活動の大会結果や日々の活動内容も必要に応じて掲載し、学校の魅力を発信する。 ② 発信の内容を見直し、発信回数を増やすとともに、保護者懇談会などで未登録者への呼びかけを随時行っていく。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回73.8%、第2回68.3%、第3回56.7%の参加率であった。 ・第1回役員会は70%を超える参加率であったが、第2回、第3回と、参加率は減少していった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創立110周年記念にあわせて、webサイトのリニューアルができた。 ・全学年保護者の登録状況は、ほぼ100%近くになっている。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会の案内を早めに配布し、webにも掲載した。 ・会合の出欠票の提出が遅れている方には、連絡をし、全員の出欠票を回収した。 ・活動の様子をwebに掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から設定した各部活動のページについて、今年度の大会結果を更新してもらえるよう定期的にお願した。 ・ホームページ更新を忘れていた担当の先生に、更新してもらえるようお願いした。また、更新作業が初めての先生方には丁寧に作業方法をお伝えした。
評 価	B 仕事の都合をつけ、午後7時からの役員会に出席していただき、大変ありがたく感じている。各委員会に分かれての協議では、活発に意見がでて、大変有意義であった。	B <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新方法が大幅に変更されたが、発信方法が以前よりも簡単になったこともあり、迅速な発信に努めることができた。 ・リアル共有システムの登録については、保護者の認知が進んだこともあり、ほぼすべての保護者が登録している。
学校評議員の意見	元旦の災害発生時に、生徒の安否確認など「安全メール」が実効性があるように、日頃からの運用も検討していくべきである。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の予定や活動内容・状況を会員に知らせ、参加者が増加するよう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報安全メールのアンケート機能や出欠機能への対応 ・学年通信のホームページでの発信や、情報が古いページの更新を行う。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：現状より悪くなった)